

# ひろば大代

NO.382

大代まちづくり  
センター

H23. 5.23

## 〓 大江高山春の登山 〓

### 念願かなう？

大代小学校教頭 梶谷 悟

「四月十七日は大江高山登山！」  
三月のある日、佐藤連合自治会長が大代小に来られた際、私にポソツとつぶやかれた言葉です。

毎朝、祖式交差点を曲がると突然現れる大江高山の雄大な姿を目にする度、いつかは登りたい、いつかは登りたいと思っていたのですが、佐藤さんのこの一言によって、腰の重たい私の決心が固まりました。

それに、登山に対してこうも思っていました。これまで大山や三瓶山に登ったり、島根半島の北山山系を縦走したりしたことがあったので、八〇メートルの大江高山登山なら何とかかなる

だろうと・・・。  
しかし、現実の違いがありました。想像していた以上に勾配がきついんです。



頂上にて記念撮影 みんなハイポーズ！！

いっしょに登った人たちは、大江高山の豊かな自然を満喫し、先々でギフチョウやイズモコバイモなどの貴重な動植物を見つけては写真を撮っておられるのに、私にはそんな余裕も全くなく、ひたすら歩くのみでした。

出発から二時間、ようやく山頂にたどり着きました。



春の女神「ギフチョウ」

急勾配に苦労した分、「やったぞ！ついに山頂到達！」という達成感も大きかったです。晴天のおかげで山頂からの景色も最高でした。せつかく登ったのだから、コーヒーでも沸かして飲みたかった！翌日からは筋肉痛に苦しむ毎日でしたが、コーヒーを飲むのは次の機会にとっておこうと思えるほど、大江高山は挑戦し甲斐のある山だと強く感じました。

## Ⅱ大代に来て

一ヶ月Ⅱ

### 大代の宝物を 探します！

大代小学校校長 多田房明



この度の人事異動で、大田市内の長久小学校から、校長として大代小学校に赴任しました。

二十年間の国道九号線通勤を終え、季節感あふれる県道を通り、仁摩から通っています。

大代小学校を初めて訪れた時、校舎壁面に「田植え囃子」が描かれているのが心に残りました。校舎内の光庭にも同様な壁画がありました。田植え囃子は中学生によって大切に伝承され、七月十七日に行われる石清水八幡宮の夏祭りに奉納されている事を知りました。

校舎の背後にそびえる「大江高山」は、大代小学校校歌の冒頭に登場します。先日地域の方といっしょに登頂す

る機会があり、形の美しい名峰であるだけでなく、ギフチョウやイズモコバイモ・ミスミソウといった貴重な動植物の宝庫であることを知りました。

「田植え囃子」や「大江高山」の他にも、まだまだ大代には宝物がいっぱいありそうです。「大代の宝物」を六名の子ども達や先生方と一つでも多く見つけ、教育活動に積極的に取り入れたいと思っています。

「ふるさとを大切にする子ども達」を育てるためにも、地域の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

### 一生懸命 がんばります

大代小学校講師 今村拓真



この度、江津市の津宮小学校から転任して参りました。

津宮小学校の全校児童数が四百名だったのに対し、大代小学校は六名と期待と不安の中で四月を迎えました。

今では、子どもたちの笑顔と思いやりに助けられ、毎日を楽しく過ごしています。

大代小学校は、地域と良い連携を築いて、子どもたちを見守っています。大代など一ヶ月過ぎて感じていきます。大代の歴史や伝統文化を子どもたちがすぐ学習できる、体験できる環境があることは、本当に素晴らしいことだと思います。子どもたちが、ふるさとを大切に、誇りだと思おうよう、私ももつと大代のことを知って、勉強しようと思えます。

大代小学校の六人の児童と共に学び、共に笑い、また子どもたちのために、一生懸命取り組んでいます。これからもよろしく願います。

### 大代小に やっつけて

大代小学校校務技能員 山本浩嗣



この度、温泉津小学校から来ました、校務技能員の山本と申します。

毎朝、湯里から通っています。始めは、湯里周辺で見る風景とあまり変化がない印象を受けましたが、今ではこちらの方が開けているような・・・そんな気がしています。

児童数六名の学校ですが、毎日大江高山に見守られながら通ってくる子供たちは、大変元気です。明るく素直な大代の子供たちと過ごして毎日が楽しく、心が洗われるような日々を過ごしています。

私にも中学生の息子がいます。今思えば旧湯里小も、勉強に運動に、小規模校ならではの、きめの細かな指導を受けられることができ、また地域の方々にも大切に见守っていただいたからこそ息子の現在があるのだと思っています。今年度、縁あってこちらにやってきました。大変微力ではありますが、快活な“大代っ子”の成長を見守っていったらと思っています。どうぞよろしくお願いします。



〓よろしく

お願い

します〓

大代駐在所

金築 努



初めまして、この3月から大代駐在所に勤務しています。

金築 努（かねつき つとむ）と申します。

出身は、出雲市東林木町です。

年齢は、現在49歳です。

家族は、妻と二人暮らしです。

警察官になって25年が過ぎましたが、駐在所勤務はほとんど経験がなく、最初は戸惑いもありましたが、約二か月が経過し大分慣れてきました。

大代に赴任して思ったことは、皆さん親切であることです。毎日各家庭を訪問させてもらっていますが、本当に気さくに話をして頂き有り難く思っています。

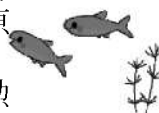
そのおかげでしょうか、事件事故もこちらに来てから殆どありません。ただ、空き家や高齢者の方だけの家が

多く、住民の方もその点を不安に思っておられるようです。

私の力は微力ではありますが、大代の治安維持のために頑張っていく所存ですので、皆さんよろしくお願いします。

ふるりの宣伝!

関西高山会 梅原 勲



去る4月13日、大阪府箕面市の箕面ゴルフ倶楽部で、島根県人会親睦ゴルフコンペが30組120名の参加で開催された。

大代町出身者の中から、大田市Bチームとして、山口正晴さん（下市）芥川弘孝さん（下市・林）梅原 勲（柿田）の3名で参加し、運良く団体優勝することができ、優勝カップと島根県知事賞を頂いて本当にラッキーでした。大代町は大田市の中でも外れの方のため、知名度も低く知らない人ばかりでしたが、この優勝で少しは「ふるりの宣伝になったかな？」と勝手に思っているところです。

尚、今回の優勝は山口正晴さんの素

晴らしい活躍のお陰で、ちなみに山口正晴さんはゴールドシニア部門（70歳以上）でも個人優勝されました。

これからも健康と人とのふれあいを大事にし、いつまでもゴルフを楽しみたいと思っています。

ちよつと自慢話になつちやつてゴメンなさい。

## 東日本大震災を想う

### 「人生の感動とは何か」

関西高山会 中本 弘



今年の三月十一日「三・一一」は忘れることの出来ない大震災であった。

発生して一ヶ月半もたつのに、東北地方において未曾有の大地震・津波そして福島原子力発電の放射線により「生きても地獄」「死んでも地獄」の様相を連日テレビ・新聞その他報道機関を通じて報道されている。

さて、私が見た体験は、阪神淡路大震災の時であった。まだ警察官として在職中であつたので「先ず現場を見る」ために現場の神戸市へ行ったことがある。「現場を見ること」こそが長年の

体験・習慣であり「現場を見て考えること」こそがすべての基本であることを知った。

私は、当時関西高山会の事務局長であり、現場である神戸を見ることにより、なにか自分に出来ることはないか自問自答したことがあつた。

当時、大代町出身者で震災にあつた方々になにか手助けすることはないだろうかと考えた。

この精神こそ関西高山会の目的である「会員相互の親睦及び大代町出身者の福利増進」になると考え、当時の関西高山会会長・副会長に相談し、当時大代公民館長であつた「今は亡き故・渡吉正氏」にその主旨を話すと「ひとつ返事」でがんばりましょうと強い返事があつた。

大代町出身で被害にあわれた方に物心両面からいただいたことは、今でも頭・心の中をめぐりあい、すばらしい関西高山会を創立したと実感した。その結果、尼崎市に住んでおられた方から、「本当に嬉しかった。これから関西高山会の総会に出席します」と嬉しい便りも来た。

私は、今日の東日本大震災を聞く度に、故・渡吉正氏の顔とひと言でわかつたと実行にうつされたその言・動を感謝の気持ちで思い起こしています。諺に「人は死してもすばらしいことを残された」と今でも心の中に残っています。

故・渡吉正氏も「天国のどこかで東北大震災と阪神淡路大震災を重ね合せて「のど元すぎれば忘れてはいけないよ」と言っておられるような気がします。夢の中で時々思い出し、「人生の感動」とはこのことであると確信いたします。渡吉正氏が亡くなられて長年にもなりますが、今でも「惜別」の念をいただいている者がいると思ひ出しているだけで感動であります。

## 東日本大地震を教訓に

### わが町の防災意識の向上を

柿田 横手新治郎



東北地方を中心に東日本を襲った地震は、M（マグニチュード）9と明治以来最大の地震の規模だといわれます。

各地で、津波をはじめ、停電や火災、家屋倒壊などの被害状況がテレビに映し出されるたびに、目を疑うとともに覆いたくなる惨状に、「文明」という言葉がむなしく感じられます。

地震の経験が多く、津波にも可能な限りの備えをしていたはずの日本で、これほどの被害になるとは、現世を生きているものにとっては、体験がありません。文明の利器の最先端のような携帯電話もほとんど役に立っていません。地震直後は公衆電話に長い列ができ、やっと順番が回ってきたらカード専用だったり。

文明の象徴のような電気は、原発事故の影響で、東京電力は「計画停電」に踏み切ったとか。電気が来なければパソコンも動かないのに、停電情報はインターネットのホームページで確認しろという。電車も道路信号が止まる。地域の設備によつては水道もガスも使えなくなる。

「文明」の空極といえる原子力発電が凶器になり、周辺住民を苦しめている。この度の地震は、想定以上の地震ではありませんが、原発の危険性は想定

されていたことです。

世界最大級のM9、犠牲者の数は想像を絶するし、医薬品や暖をとる燃料、食料品も不足、しかも運ぶための車の燃料もない。なにより必要な情報も不足している。

「文明」の2文字がむなしく思える状況が毎日続いている。ニュージールランド地震が起きた時、日本で何時起きてもおかしくないといわれていることが現実のものとなった。

明治5年に起きた浜田地震から139年が経っているが、この時の被害は浜田地域を除くと、大代村(当時の大家・八代村)、祖式村が大変大きかったことを、昨年7月調査にいられた技術士(応用理学部門)から聞いたし、故人となられた椿自治会出身の高崎様(益田市)の調査資料からも伺えた。

昨年の文化祭にその資料を掲示しましたのでご覧いただいたかと思いますが、明治5年2月6日午後4時40分頃発生し、M7.1だったと記されている。全壊家屋は、現大代町全体で75戸(大家村40戸・八代村35戸)、祖式町では56戸、死者も大家村全体で20人、

山崩れによる方が柿田方面で17名を数えたと書かれていた。

被害を出来るだけ少なくするためには、日頃から「防災意識」を高め、食料の余裕を持った保存、持ち運びが容易で、どこでも使える情報機器の準備などを心がけていることが、立ち直りを早くすることとなるように感じる。

今は、ただ一人でも多くの無事が、少しでも早く確認されることを祈るのみです。



(三月寄稿文)

## 今年もにぎやか「そば道場」前 自転車レース大代町を通過 昨年より多い563人に



5月8日(日)大田の久手海水浴場駐車場を出発して「石見グランフォンド2011」(200キロコース)に全国から集まった563人の選手の皆様が、午前8時過ぎから次々と休憩所の大代町「そば道場」前に到着されました。

当日朝は雨が降って、肌寒いお天気



頑張って～！

でしたが、選手の皆さんは「はぐるま  
会員」特製の温かくて美味しい「大代  
そば」を堪能して元気を取り戻し、み

んなの声を援を受けながら、  
「有難う。頑張ります」と、次の目的  
地を目指して元気に力強くペダルをこ  
いでいかれました。昼からは良いお天  
気になって一安心しました。

### 6月行事予定

- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- ▼ 4日(土) 大代地区社協
- ▼ 5日(日) 福祉弁当
- ▼ 12日(日) 関西高山会総会
- ▼ 21日(火) さくらんぼ教室
- ▼ 23日(木) 連合自治会
- ▼ 23日(木) 地域交流(三中)

### お知らせ

#### ◎義援金のお礼

大代町連合自治会より



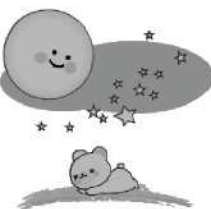
多くの被害をもたらした東日本大地  
震の義援金をお願いをいたしましたと  
ころ、町民の皆様から温かい善意が集  
まり、4月25日に大田市役所を通じ、

義援金26万4千円を送らせて頂きま  
した。

地震から2ヶ月、今私達に出来る事  
を考え、実行してそれが少しでも現地  
の皆さんの心に届いて元気を取り戻し  
てもらえたらと感じています。皆様か  
らのご支援本当に有難うございました。

### ◎お礼

東京石見高山会 松野 広様  
まちづくりセンターに金一封のご厚  
志を頂きました。厚くお礼申し上げます。



### ◎編集後記

夜、月が特別きれいでした。  
調べたら十五日の満月(十五夜)を  
過ぎた陰暦十六日を、十六夜(いざよ  
い)の月といいます。意味は「ためら  
う」「躊躇する」の連用形が名詞化し  
た言葉だそうです。日本語って奥が深  
くて複雑なんですね。

「ひろば大代」の編集会議の帰り道に  
見た美しい月を思いだして感じていま  
す。  
(☆☆と)